

「江東区オリンピック・パラリンピックまちづくり基本計画」を策定

レガシー(遺産)を生かし、世界から注目されるまちづくりを展開

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、江東区に多くの競技場が配置され、競技場周辺の開発はますます加速していきます。これを一極性・一過性のもので終わらせることなく、大会終了後も江東区が持続的に発展していくため、本計画を策定しました。策定にあたっては、昨年度行った「聞かせて！あなたのオリンピック・パラリンピック」での、1200人を超える多くの区民の皆さんから頂いたご意見やアイデアも参考にしています。今後は、本計画をもとに、区として特に推進すべき施策の検討や関係機関等への要望を行ってまいります 関 まちづくり推進課まちづくり担当☎3647-9714

本計画は、競技場が集中する江東湾岸エリアの目指すべき都市像を「国際スポーツ都市」、「先進防災都市」、「国際観光都市」として掲げました。また、同エリアでは3つのゾーンと目標を設定し、まちづくりの考え方として「10の視点」と

「方針」をまとめ、区民からの声や学識経験者の意見など、自由な発想をもとに考えられた「実施案」も例示しています。これらの実現により得られるまちづくりの効果を深川・城東エリアにも波及させることを目的としています。

3つのゾーンと競技場の配置



江東湾岸エリアのまちづくり効果を区内全域に

江東湾岸エリアのまちづくりの効果を区内全域に広げていくため、「地下鉄8号線(豊洲～住吉間)の延伸」や、「水上交通ネットワーク」、「路線バスの充実」の強化等を行います。これにより、本区内の回遊性を向上させるとともに、適切な土地利用や必要な都市機能を導入して、バランスのとれたまちづくりを推進します。



レガシーを未来へ引き継ぐための要望

オリンピック・パラリンピックによってもたらされるレガシーを後世に残し、未来へ引き継いでいくためには、国や都、事業者と連携しながらまちづくりを進めることが重要です。そこで、「地下鉄8号線(豊洲～住吉間)の延伸」や「水上交通ネットワークの強化」など計14項目の提案を東京都等に要望していきます。大会を成功に導き、開催後も力強く発展していくためのレガシーを生み出しながら、世界から注目される魅力ある江東区を目指します。



江東花火大会 8月4日(火) (詳細8面)